

2019年度 木曾青峰高校 定時制 学校関係者評価報告書

評価

A:よい B:おおむねよい C:不十分

総合評価			学校評議員記入欄	
			評価	コメント
<p>5つの重点目標の実現に向け、各対象事項においてそれぞれ熱心な取り組みがみられ、安心・安全な環境づくりが実現している。少人数教育の実践が可能な環境が十分にいかされ、生徒一人一人に丁寧に向き合う体制がとられた。今後も生徒の成長支援のために、職員間の連携方法等の改善をすすめ、各担当分掌の取り組みのさらなる充実をはかりたい。また、あらゆる事に対して、対応が遅れることのないよう、職員間の連携をより強くするとともに、学年間の足並みを揃え、統一した指導が出来るよう、担任間の連携もすすめたい。</p>			B	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験発表会の姿、発表の内容等とても良い印象です。 一人ひとりを大切に育てようとして下さっていることがよく分かります。 教職員の皆様がもっと元気に挨拶等できると良いと感じる場面がありました。
成果と課題	評価	改善策・向上策	学校評議員記入欄	
			評価	コメント
<p>重点目標① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。 【成果と課題】 全体が落ち着いた雰囲気、問題行動のない学校生活を送っている。職員対象の非違行為防止研修会により、体罰防止の意識も定着している。また生徒が安全に下校できるため、気象や交通の情報を把握し対応できた。 コミュニケーション不足等による生徒間のトラブルに対して、専門家の協力を得ながら対応したが、今後も継続的な指導が必要である。また、スマートフォンの使用によるトラブル防止指導も繰り返し取り組む必要がある。</p>	A	<p>落ち着いた学校生活環境が醸成されており、今後も継続したい。また研修会や学習会などにより、コミュニケーション能力の向上や社会性の定着を目指すとともに、生徒のささいな変化にも気づけるよう、全職員が常に意識し、どんな小さな事に対しても情報共有を徹底したい。 不測の事態・重大な気象状況（台風、大雪等）の場合は、今後もあらかじめ適切な対応策がとれるようにしておく必要がある。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 穏やかな学校生活の雰囲気ですが、SNS等の普及により水面下でどのようなコミュニケーションが展開されているかが見えないため、意識教育は継続して必要です。
<p>重点目標② 学習・生徒指導の両面から生徒一人ひとりを大切にする教育活動を推進し、社会に出てからも通用するような生きる力と豊かな感性をはぐくむ。 【成果と課題】 面接等を通じて、生活面や学習面に対し、丁寧に生徒の相談に乗ることができた。 学校での学習が、アルバイト等で得た社会での生きる力を補完するものとなると良い。</p>	B	<p>学習面、生活面ともに、全員が丸となって、生徒一人ひとりに対し、生徒の潜在能力を引き出すため、さらに根気強く指導を続けた。 相手の気持ちや、周りの状況を理解する力が不足している生徒に対して、適切な時に、適切な場で指導する必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援センターやハローワークなど外部の人による授業や講演で社会性の窓を開いていくことも有効だと思います。 叱ること、理解させることは難しい時代になりました。保護者を指導する機会も必要ですね。

<p>重点目標③ 生徒が希望する進路を実現するための基礎的な学力及びコミュニケーション能力を育み、社会的適応力を高める。</p> <p>【成果と課題】 様々な外部講師による講習会を実施したことにより、生徒自身普段と異なる刺激を受けることができ、生活態度の向上、社会への意識向上がみられた。</p> <p>コミュニケーション能力やマナー等については、生徒ごとに差が大きく、適応力が身につきにくい生徒の能力向上のための指導は難しい現状もある。</p>	A	<p>ソーシャルスキルトレーニングを定期的に行い、生活の中に活かせる指導をしていく。また積極的に取り入れることで、外部の方々との関わりを持っていく。</p> <p>アルバイトを通して学んでいることも大きいので、それを生徒と職員で共有し、指導に活かしたい。</p> <p>今後も様々な講習会や講演会を計画し生徒に自己の在り方や生き方について刺激と情報を与える。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校時に限られた人としか接していない生徒も多いと思います。今後も様々な仕事、様々な立場の人と接する機会を設け、視野を広げてあげてほしい。 ・生徒の研究活動などが進路の選択に結びつくようなものに発展することが、今後の木曾地域の発展に不可欠であると感じています。 ・色々な思いを抱いた生徒たちが前向きに自分の生き方を見つけていける場になっているのが良い。それにとどまらず必要なスキルを育てることを大切にしていることが素晴らしいと思う。
<p>重点目標④ さまざまな活動を通し、地域との連携と開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【成果と課題】 定時制PTAや説明会等において、同時に授業公開を実施した。また、地域の保健師や支援員などとの意見交換の場を持た。校内生活体験発表会を実施し、外部からも多くの方に参加していただいているので、次年度以降も継続したい。</p> <p>時間的な制約もあるが、地域において、定時制として生徒も取り組める活動があれば良い。</p>	B	<p>地域の保健師や支援員との交流により、生徒へ多面的な指導ができるようになってきているので今後も継続していきたい。さらに地域の方々に応援・サポートされる環境づくりのため、学校行事などの広報活動も必要である。</p> <p>様々な活動を体験させるため、定時制や生徒会として、地域に貢献する活動、行事にも参加できるよう働きかけたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体・行政の積極的な関与に期待します。
<p>重点目標⑤ 「夢に挑戦する学び」への対応を進める。</p> <p>【成果と課題】 卒業後の進路や、自分に対しての自信につながるような、資格取得などにも取り組めれば良いと感じている。興味・関心を持てるものがあれば、積極的に取り組み、挑戦して欲しい。</p>	B	<p>資格取得などの希望者の拡大を目指したいが、現状でどのような資格を取得できるか、把握しておく必要がある。また、資格取得以外の「学び」についての検討も必要である。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許の取得の状況はどうか。

評価項目		評価	改善策・向上策	学校評議員記入欄	
				評価	コメント
学習指導	授業内容（補充授業を含む）の充実と出席率の向上	B	生徒の実態に応じた課題や教材の選定により、生徒の興味関心を引き、基礎学力の定着や出席率の向上をはかる。また、研修とともに他の教員の教え方を学ぶ機会を大切にしたい。	B	・できた、分かったを大切にし、少しずつ自信につなげていってほしいです。
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	B	1、2年時の早期から将来の進路への意識付けをし、進路学習の機会を設定できると良い。個別指導の充実を図る。	B	
	キャリア教育の推進	B	アルバイトは就労体験として、とても大切であるが、情報の共有がさらにできると良い。また、アルバイトだけに頼らず、進路講話の実施、個別指導の充実などのキャリア教育も必要である。	B	・定時制だからこそできるキャリア形成を積み重ねて欲しい。 ・就業体験（実際に体を動かしてみる）は重要な学習であると思います。外に出て体験する時間を確保して欲しい。
自主活動	クラブ・生徒会活動等自主活動の活性化	B	生徒全体で行事に取り組めるように手立てを考えていく必要があるため、生徒の声を大切にしながら指導内容を検討し、職員が生徒と共に企画・運営を行っていく。	B	・自分たちにできるボランティアは何かを考え合ってみてそこからスタートするのも一つの方法ではないでしょうか。
生活指導	基本的社会性を持った人間の育成	B	時間を守ること、清掃などにしっかりと取り組むことなどを生徒・職員共に意識し、言葉遣いや正しい挨拶の始動を意識的に行う。また、職員が模範となるよう、挨拶や社会的マナーを職員側から実践していく。	B	
	全職員による生徒の状況把握（情報の共有）	B	事後ではなく、進行中の状況を情報共有するため、担任会などの活用の強化、緊急時における会議等により、共有する機会を増やす必要がある。さらに全職員で生徒一人一人の特性、課題、接し方等を、密に情報共有することにより、役割を分担しながら全職員で問題に対応していく。	B	・小中学校の時、不登校であったり、障がいを持っている生徒が多く指導が大変である中、先生方が一丸となって指導されていることに頭が下がります。
	相談体制の充実発展	A	アセス後の全員面談など、定期的な面談は継続するべきである。	A	・カウンセリングを受ける機会は確保されていますか。
	家庭・地域社会との連携	B	担任のみならず、職員全員が家庭・地域と連携する意識・機会を増やせると良い。職場訪問、家庭訪問は今後も継続する	B	
学校運営	緊急時保護者への連絡体制の完備	A	緊急時の職員の連絡方法や生徒の安否確認方法、具体的な誘導などの動きや、必要な物品、書類などの共有が出来るように年度当初に周知徹底する。	A	
	学校ホームページ・パンフレットの充実	B	学校ホームページ・スクールマガジン等の定時制枠を拡充し、定時制課程の更新を月に1度はしたい。	B	
	授業等の公開	A	年2回の公開授業に加え、中学等からの個々の問い合わせに対応し、随時授業を公開してきたが、さらに教員間でも互いに見学し、授業内容の向上を目指す。	A	・丁寧に対応して下さっていると聞いています。